

背景・目的

- タラの芽などの山菜やクロモジなどの特用樹は都市住民からも人気があり、森林空間の新たな活用方法として有望である。
- こうした森林空間の活用を図るためには、様々な森林環境に応じた山菜等の栽培技術の確立が必要である。
- このため、森林総研の圃場での研究成果を活用して、森林の立地環境に応じた育成可能な山菜等を選定し、森林所有者が取り組みやすい、簡易な方法での栽培マニュアルを作成する。

人気のある山菜等



タラの芽

有名な山菜。林縁から日当たりのよいところに自生。とげのない種もある。

ギョウジャニンニク

蝦夷ネギとも呼ばれ、ニンニクの香りのする山菜。ニンニクと同様の成分を含む。広葉樹林下に自生。

クロモジ

芳香性があり爪楊枝の材料として人気。生薬として、芳香性健胃薬にも利用。林内に自生。

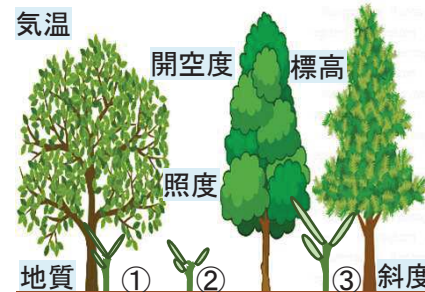
研究内容

- 1 県内に複数試験地を設定
- 2 立地環境に応じた育成可能な山菜等を選定
- 3 植栽環境による生育状況調査
- 4 簡易な栽培方法についての調査
- 5 栽培マニュアル作成

研究スケジュール

項目	年		
	1年目	2年目	3年目
1 試験地設定(地質・標高・斜度)	→		
2 立地環境に応じた育成可能な山菜等を選定	→		
3 植栽環境による生育状況調査	←→	←→	←→
4 簡易栽培方法の調査	←→	←→	←→
5 栽培マニュアル作成			←→

生育状況調査



同一種を以下のような環境で植栽し、比較を行う  
 ① 樹下植栽(照度低)  
 ② 被陰なし(照度高)  
 ③ 樹間植栽(照度中)

期待される効果

- 森林空間で山菜等の簡易栽培を行うことで、林家の新たな収入となる。
- 着地型観光など、森林空間を活用した新たなビジネスの創出につながる。

